

令和元年度 第3回玉野市総合教育会議 議事概要

総合政策課作成

日時 令和2年3月24日（火）16:30～17:00 玉野市役所3階 特別会議室

出席者 【構成員】 市長 黒田 晋
教育長 石川 雅史
教育長職務代理者 野田 洋二
教育委員 大川 佳郎
教育委員 妹尾 恵美
教育委員 加藤 正枝

【事務局】 教育次長、教育総務課長、就学前教育課長、社会教育課長、教育総務課長補佐、
教育サポートセンター事務長、健康福祉部長、政策財政部長、総合政策課長、
総合政策課主幹、総合政策課主事

1. 協議事項

- (1) 学校再開の方向性について
- (2) その他

2. 議事概要

市長 新型コロナウイルスの影響により、国から学校休校の方針が示され、3月2日から本市もその体制をとっている。未だ新型コロナウイルスの感染者数は増加傾向にあり、県内でも先日1人発症が確認された。新年度以降の学校再開について、本日、文部科学省から指針が示されたのでその内容も含めて議論したい。

休校に際して、学童保育や教職員には大変協力いただき、何とか3月はやってこれた。子ども達のストレスや家庭への負担を考える中で、年度替わりが一つの節目となる。子ども達の命を大切にしないといけないが、玉野市の現状を見ると、新学期から再開して、安全・安心な教育の場を提供すべきではないかと考えている。

学校再開といっても教育委員会だけにとどまらず、手洗い、うがい、消毒、マスクの着用など様々な検討課題がある。市としても、出来る限り協力し、玉野市の子ども達をしっかりと支えていく体制を整え、学校再開の方向性を検討したい。

教育長 本日晒された国からの通知について、説明させていただく。新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において、春休み明け以降の学校再開に当たっては、多くの子ども達や教職員が、日常的に長時間集まることによる感染リスク等に備えていくこと、また地域ごとのまん延の状況を踏まえていくことが重要であるとの考え方が示された。

また、日々の学校現場において、感染拡大の3要件を避け、咳エチケットや手洗いなどの基本的な感染症対策を徹底することが重要であるとの考え方が示された。

通知のP.2に示されているように、原則として、万全の感染症対策を講じた上で、新学期を始める準備を行うようにという考え方である。

別添1の学校再開ガイドラインでは、保健管理等に関することとして、基本的な感染症対策の実施を行うことが重要であるとされている。家庭と連携して毎朝の検温及び風邪症状の確認を行い感染源を絶つことや、手洗い、咳エチケット等により感染経路を絶つこと、十分な睡眠等により抵抗力を高めることが挙げられている。P.3では、3要件を出来るだけ排除することの重要性が示されており、P.4では、学校においては、換気の徹底やマスクの使用等の対応をとることが必要とされている。

以上の内容がガイドラインの主要な部分で、この辺りが学校再開の方向性を検討する議論の中心になると考えている。

P.12には10項目のチェックリストが示されており、学校を再開した際には、こういったチェックリストを活用しながら対応していくことになる。

新学期スタート時に、感染拡大していなければ、教育委員会としては、再開の方向で準備を進めていきたい。教育委員会として取り組むこと、健康福祉部に協力してもらうことを確認しながら、議論していきたい。

野田委員

ガイドラインに沿って、ぜひ新学期から再開していただきたい。

チェックリスト等により、文書を見ればやるべき対応が分かるが、実際の現場では予期せぬ状況も起こり得るため、子ども達が授業中にこういう動きをしたらどうするのかという具体的な対応を教職員がしっかり理解していなければならない。一番心配しているのは吹奏楽部の部活動である。楽器を吹くため、どのように距離を保って練習させるかなど、校長会に示すと思われるが、各教職員がしっかり対応できるように徹底的な意識付けをお願いしたい。

大川委員

野田委員の意見に賛成である。教職員にかなりの負担がかかるため、病になってしまわないよう、手厚いサポート体制を整えていただきたい。

万が一、最悪の事態になれば、すぐに閉鎖できるような準備をした上で再開していただきたい。

妹尾委員

小学6年生は、卒業まで突然の休校となり、精神的にストレスがかかったと考えられる。しかし、簡略化されたものではあったが、卒業式が迎えられたことで、日常が当たり前ではないことに気づけて、子ども達の気持ちが一つにまとまったようにも感じた。

ガイドラインを見て感じたのは、家庭よりも学校の方が安心な部分があるかもしれないということである。学校の方から、休校中にも連絡を取ってもらえれば、良いのではないかと。再開されれば、多くの子ども達は喜ぶと思うが、持病を抱えた子ども達にとっては、リスクが高いと考えられる。そういった子ども達には授業を撮影し、配信するような仕組みをつくっていけば、安心できるのではないかと。

加藤委員	会社の従業員に、休校中の子ども達の様子と保護者としての感想を聞いてみた。最初のうちは、子ども達が伸び伸びできて良かったが、だんだんと子どもも親もストレスを感じるようになったとの声を聞いている。 学校再開の報道を聞いて、子どもも親も楽しみにしており、学校で学べることへのありがたみを感じているとのことだった。そういった気持ちを大切にして、4月から勉強に取り組めたら良い。 一方で、学校に行くのが辛くなっている子ども達もいると考えられるため、そういった子ども達へのフォローも大切にしていきたい。 新型コロナウイルスによる休校の経験が、安全・安心な学校生活が送れるきっかけになれば良い。
市長	概ね、再開を望む意見であった。 確認だが、部活動はすぐに再開するのか。
教育長	そこについては、県からの通知を確認してから判断したいと考えている。 春休み中の再開は難しいだろう。
市長	給食はどうか。
教育長	状況を確認する必要があるが、4月上旬に最終決定したい。 感染症の状況によるが、4月中の再開を考えている。
市長	今日の結論にはならないだろうが、子ども達が安全な状態で登校できるよう、校長会をはじめ、各教職員にもお願いをしながら検討していきたい。 再開後も、新型コロナウイルス感染の不安から、登校しなかった場合、欠席扱いにはしないのか。
教育長	その予定である。しばらくは、欠席ではなく出席停止の扱いとする。
市長	保護者が学校に通わせることへ不安を感じ、登校させなかった場合は、欠席扱いとなるのか。
教育長	出欠の扱いは、県から示されるものを参考にしながら、判断したい。少なくとも2月下旬からは、欠席扱いにしていない。 また、学校が再開されたとしても、集まることによる感染リスクは避けなければならない。地域の方が参画する活動など、リスクがあり得る場合は、十分配慮する必要がある。当面、感染リスクが高まる場面は排除していきたい。
市長	例えば、世代間の交流事業や地域の方を招くような活動は、当面は見送るということか。

教育長

そのとおりである。

市長

子ども達に、今起こっていることをどこまで説明するかという点も重要なポイントである。当たり前のことだが、手洗い等の基本的な感染症対策を行う重要性を、子ども達と保護者に、これを契機に、家族で徹底して欲しいという周知をしっかり行いたい。

市を挙げて患者をださないよう、予防できることはしっかり実施し、学校との連携体制を整えた上で、4月を迎えられればと考えている。

現時点では、4月の始業式から再開するという方向で動いていく。

物品の面で、消毒液、体温計、マスク不足が解消していないが、市を挙げて取り組んでいきたい。

教育長

教育委員会として、学校再開に向けて取り組んでいきたい。

健康福祉部にも、引き続き協力をお願いする。

市長

繰り返しになるが、教育委員の意見としては、4月からの再開で一致しているということで、市を挙げて4月からの学校再開に向けて取り組んでいく。

細かいところは引き続き議論を進め、万全の体制で、子ども達が元気に新学期を迎えられるよう準備していきたい。